

# 地域農業を支える多様な人材の活躍

～ 空知管内における農福連携の推進に向けた取組 ～

対象：農福連携志向農業者 など

## 1 活動の背景

### ◇農業・農村を支える人材の状況◇

- 後継者不足や高齢化から農業の労働力不足が問題 → 労働力の確保
  - 多様な人材・多様な形態による労働力の確保が必要
    - 農福連携や外国人技能実習生、フレックスタイム、ワンデーの雇用等
- ～多様な人材は、農作業や農作物栽培の知識習得と同時に農業の理解者となる期待～

### ◇農福連携の推進に向けた取組◇

- 志向農業者・志向福祉施設ともに具体的情報が少なく取り組みが鈍い
    - 総合振興局や関係機関と連携し推進する必要性
- ～地域係・関係機関と連携した労働力確保の取り組み支援と対象者へのフォローアップ～



## 2 活動の経過

### ◇岩見沢地域における農福連携推進◇

- 振興局農業経営係と連携し、空知管内の農福連携推進に向けた取組内容を検討
    - 空知管内農福連携セミナー開催（R2年度）
      - ～指導農業士・農業士と福祉施設の出会いの場となった～
    - 岩見沢地域での農福連携試行農家（指導農業士）をモデルとした取組
- ～農業者、福祉事業者、JA、市役所担当者との連携による、農福連携の実施に向けた体制づくりの検討、推進へ～

- 農福連携の試行（岩見沢市栗沢 大槻指導農業士）
  - ～ひまわりは種作業の試行から、通年作業の実施へ～



福祉事業所による農場見学



（ひまわり播種作業）



ひまわり調整作業（葉とり）



農業者「大変助かる」「指導員の理解が大きい」

「単価設定が難しい」

福祉事業者「仕事がない時にも、農業者が無理していないか？」

「無理すると続かない、継続性」

□農福連携の試行（岩見沢市 東井指導農業士）  
～果樹（りんご）のお試し作業・見学会～



福祉事業所・指導員による見学会



2事業所によるお試し作業（葉摘み）

\*今回のお試し作業・見学会では、その後の契約には至らなかったが…

福祉事業者 → 「脚立作業は、利用者の足が悪く、困難」

農業者 → 「どんな仕事をお願いできるのか、分からなかった」

「脚立不要の作業もある。また次年度、違う作業のお試しをしていただけたら」

□園芸担当者による農福連携の実践事例視察（七飯町 JA新はこだて花き共選施設）  
～従業員の高齢化・雇用確保（期間雇用）の課題解決～



信頼関係が大事



休憩室設置



いかに話易い環境にするか

JA新はこだて花き共選施設

振興局呼びかけの、福祉事務所等の見学、農作業実習、意見交換が契機。JA独自の作業体験、一般従業員の好評を得て、クレドホテル函館と協議検討開始。双方の課題等を整理し、R2年5月より農福連携スタート。

～マニュアルづくり、働きやすい環境づくり、コミュニケーション～

□担い手担当者による管内先進事例調査の実施（JAきたそらち）  
深川市稲田 北海道指導農業士 渡邊滋典氏

・R2から事業所利用者2名が、継続して就労。定植から採花、選花までの一連の作業。JAからの紹介で、自分にも有意義と感じて受入を決めた。

JAきたそらち（深川市）

H30年度から「農福連携」の取組開始（(株)深川未来ファーム（3セク）での収穫作業や選果場での箱作成作業）。

R2年度から当初の目的である生産者への就労を開始。JAが仲介に入りマッチングを行った結果、5戸の生産者で開始した。

～キーマンの存在 JA担当職員のサポート、元JAマンの指導員～



JA事務局がキーマン

### 3 成果の具体的内容

◇管内担い手担当、本所園芸担当、振興局担当との連携、情報共有化による共通認識の醸成。

◇岩見沢地域における農福連携の取組が開始された。

### 4 今後の課題と対応

◇各地の農福連携事例収集、管内の福祉事業所および農福連携体制構築に向けた状況把握

◇岩見沢地域および空知管内における、農福連携体制構築および関係機関の役割分担。

・視察研修、研修会、意見交換会の企画開催支援および交流の場づくり

・農業者、福祉事業所双方が納得できる、継続性のある取組となるような仕組みづくり。